

《開幕》六本木クロッシング2025展： 時間は過ぎ去る わたしたちは永遠

2025年12月3日(水)ー2026年3月29日(日) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

いま、現代アートからみる日本とは

「六本木クロッシング」は、森美術館が3年に一度、日本の現代アートシーンを総覧する定点観測的な展覧会として、2004年以来、共同キュレーション形式で開催してきたシリーズ展です。第8回目となる今回は、森美術館のキュレーターに加えて国際的に活躍するアジアのゲストキュレーター2名を迎え、「時間」をテーマに、国籍を問わず日本で活動する、もしくは日本にルーツがあり海外で活動するアーティスト全21組を紹介します。

出展作品には、絵画、彫刻、映像はもとより、工芸、手芸やZINE(ジン)、さらにはコミュニティプロジェクトも含まれます。建築、デザインの領域を越え、国際的に高い注目を集めるA.A.Murakamiの没入型インスタレーション。海外のメゾンとのコラボレーションでも話題の桑田卓郎の圧倒的な造形美を放つ色彩鮮やかな大型の陶芸作品。自身の声や環境音を用いて作品を制作し、舞台作品なども手掛ける細井美裕の新作サウンド・ピース。近年、国内外で高い評価を得ている沖潤子の、繊細な手仕事から生み出される抽象画のような刺繍作品など、100点を超える多様で多彩な表現が一堂に会します。

本展の副題「時間は過ぎ去る わたしたちは永遠」が示すのは時間の貴さと儚さ。各作品に現れるさまざまな時間の交差をとおして、日本のアートを多角的に見つめ直します。



和田礼治郎 《MITTAG》

2025年 ガラス、真鍮、ブロンズ、ブランドー

フレーム：150×150×46 cm、土台：88.3×77.6×73.7 cm

展示風景：「六本木クロッシング 2025 展：時間は過ぎ去る わたしたちは永遠」森美術館(東京)2025-2026年

制作協力：SCAI THE BATHHOUSE, Tokyo 撮影：竹久直樹

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 幡井、上田、伊原

Tel: 070-4303-7234(幡井)、080-2573-6816(上田) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

出展アーティスト

*姓のアルファベット順

*出展アーティストは変更となる可能性があります。

A.A.Murakami	2011年ロンドンにて結成、同地および東京拠点
ケリー・アカシ	1983年ロサンゼルス生まれ、同地在住
アメフラシ	2015年山形にて結成、同地拠点
荒木 悠	1985年山形生まれ、京都在住
ガーダー・アイダ・アイナーソン	1976年オスロ生まれ、東京在住
ひがれお	1995年沖縄生まれ、同地在住
廣 直高	1972年大阪生まれ、ロサンゼルス在住
細井美裕	1993年愛知生まれ、東京在住
木原 共	1994年京都生まれ、東京在住
金仁淑(キム・インスク)	1978年大阪生まれ、東京およびソウル在住
北澤 潤	1988年東京生まれ、インドネシア、ジョグジャカルタ在住
桑田卓郎	1981年広島生まれ、岐阜在住
宮田明日鹿	1985年愛知生まれ、三重在住
Multiple Spirits	2018年ウィーンにて結成、同地および東京拠点
沖 潤子	1963年埼玉生まれ、神奈川在住
庄司朝美	1988年福島生まれ、東京在住
シュシ・スライマン	1973年マレーシア、ムアル生まれ、同地および広島在住
和田礼治郎	1977年広島生まれ、ベルリン在住
マヤ・ワタナベ	1983年リマ生まれ、アムステルダム在住
キャリー・ヤマオカ	1957年ニューヨーク生まれ、同地在住
ズガ・コーサクとクリ・エイト	2009年兵庫にて結成、同地拠点



桑田卓郎
《無題》
2016年
磁土、釉薬、顔料、銅鉄、金、ラッカー
288×135×130 cm
※参考図版

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 幡井、上田、伊原

Tel: 070-4303-7234(幡井)、080-2573-6816(上田) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

開催概要

展覧会名：六本木クロッシング2025展：時間は過ぎ去る わたしたちは永遠

主催：森美術館

助成：オランダ大使館、モンドリアン財団、ノルウェー現代美術財団(OCA)、
オーストリア住宅・芸術・文化・メディア・スポーツ省

協賛：アンソロピック、株式会社大林組、三洋貿易株式会社、
公益財団法人現代芸術振興財団

制作協力：SCAI THE BATHHOUSE、Lisson Gallery、MISAKO & ROSEN

企画：レオナルド・バルトロメウス(山口情報芸術センター[YCAM]キュレーター)
キム・ヘジュ(シンガポール美術館シニア・キュレーター)

徳山拓一(森美術館シニア・キュレーター)

矢作 学(森美術館アソシエイト・キュレーター)

※姓のアルファベット順

会期：2025年12月3日(水)ー2026年3月29日(日)

会場：森美術館(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階)

開館時間：10:00-22:00(火曜日のみ17:00まで) *入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

*ただし、12月8日(月)は17:00まで、12月30日(火)は22:00まで

入館料：

	[平日]		[土・日・休日]	
	当日窓口	オンライン	当日窓口	オンライン
一般	2,000円	1,800円	2,200円	2,000円
学生(高校・大学生)	1,400円	1,300円	1,500円	1,400円
中学生以下	無 料			
シニア(65歳以上)	1,700円	1,500円	1,900円	1,700円

* 表示料金は消費税込

* 事前予約制(日時指定券)を導入しています。各種オンラインチケット販売サイトから「日時指定券」の購入が可能です。

オンラインチケット販売サイト：森美術館オンラインチケット、Trip.com、アソビュー！、Klook

* 当日、日時指定枠に空きがある場合は、事前予約なしでご入館いただけます。

* 本展のチケットで、同時開催プログラムもご鑑賞いただけます。

* 2025年12月29日(月)ー2026年1月2日(金)は、[土・日・休日]料金となります。

一般のお問い合わせ：Tel: 050-5541-8600(ハローダイヤル) 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

最新のプレス画像は、こちらのURLより申請、ダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/roppongicrossing2025/>



プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 幡井、上田、伊原

Tel: 070-4303-7234(幡井)、080-2573-6816(上田) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

本展のみどころ

1. 多様なメディアによる新作

本展では、多くのアーティストが新作を発表します。**A.A.Murakami**による、AIが記述したオペレーティングシステムによって機能する、シャボン玉を用いた大型の新作インスタレーション《水中の月》のほか、**廣直高**の新作絵画と彫刻作品、**和田礼治郎**の彫刻、**マヤ・ワタナベ**の映像など、多様なメディアによる作品が揃います。



(左)
廣直高
《無題(周波数)》
2025年
キャンバス、染料、オイルパステル、ロープ、ハトメ
261.6×213.4 cm
Courtesy: MISAKO & ROSEN, Tokyo
撮影: KEI OKANO

(右)
《無題(接地)》
2025年
キャンバス、染料、オイルパステル、ロープ、ハトメ
261.6×213.4 cm
Courtesy: MISAKO & ROSEN, Tokyo
撮影: KEI OKANO

2. 体験型、参加型の鑑賞体験

木原共によるAIゲーム作品のプレイ体験に加え、**宮田明日鹿**が会期中に実施する「出張手芸部」への参加など、本展会場ではさまざまな体験が可能です。**アメフラシ**はワークショップを通して、草鞋^{わらし}づくりなどの伝統産業継承プロジェクトを紹介し、**北澤潤**は、ろうけつ染めのワークショップを行います。また、**ズガ・コーサクとクリ・エイト**による作品が、展覧会最終日に解体される際には、鑑賞者は作品のパーツを持ち帰ることができます。

3. 「日本」を再考する——グローバルなアートシーンのなかでの「日本」

日本のアートがいまや国籍や地理的な境界に限定されないことを本展は明示します。**ケリー・アカシ**はブロンズやガラスを用いた彫刻作品を通して、身体や記憶、刹那と永遠性といったテーマを詩的に表現し、**キャリー・ヤマオカ**は歴史的記憶とその消失、また風景を巡る一連の作品を創り出すためにアナログ写真の手法を用います。ともに日系アメリカ人であるアカシとヤマオカの作品には、国境や世代を越えて共鳴する日本的な抒情性を見出すことができます。**シュシ・スライマン**はマレーシア人アーティストでありながら、長年にわたり尾道で土地の歴史やコミュニティに根差した活動を続けています。多様な視点による記憶、移動、越境といったテーマが見て取れるこれらの作品は、日本の社会と文化を様々な形で物語ります。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 幡井、上田、伊原

Tel: 070-4303-7234(幡井)、080-2573-6816(上田) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

本展を紐解く4つの鍵

本展のテーマ「時間」を読み解く4つの観点から、多様な作品同士の繋がりを理解することができます。

さまざまな時間のスケール

最初の展示室では、さまざまな個人的な経験と普遍的な事柄の関係性を探求する作品を紹介しています。**ケリー・アカシ**の、日系アメリカ人強制収容所に収容された家族の記憶を題材にした作品は、個人的な体験が語り継がれ、長い時間の流れに組み込まれることで、普遍的な意味を持つことを示しています。また、**庄司朝美**と**廣直高**は、全ての人にとって経験の土台となっている身体に制約を課すことで、その存在について再考を促す絵画表現を生み出しています。**沖潤子**による繊細な刺繍作品は、手仕事や布に宿る家族の記憶を辿りながら、個人と社会、過去と現在を結び直します。また、**桑田卓郎**は、古来受け継がれてきた日本の陶芸の技術を大胆に引用しながら新たな表現の可能性を模索しています。これらのアーティストは、限られた一人の人生の時間を、日常、身体、歴史といったスケールの異なる時間と結びつけているのです。



(左)
ケリー・アカシ
《モニュメント(再生)》
2024-2025年
バーナーワークで制作されたホウケイ酸ガラス、コールドステン鋼
66×43.2×43.2 cm
Courtesy: Lisson Gallery
撮影: Dawn Blackman
※参考図版

(右)
沖潤子
《甘い生活》
2022年
綿、亜麻、絹
55.0×35.5×9.8 cm
個人蔵
Courtesy: KOSAKU KANECHIKA, Tokyo
撮影: 木奥恵三

時間を感じる

続いて、時計で測られる一律な時間ではなく、多様な時間の存在を感じさせる作品を紹介します。**A.A.Murakami**による大型インスタレーションは、霧や光といった流動的な要素を用い、観客を物理的にも心理的にも包み込む体験を生み出します。そこでは、時間がゆっくりと拡張され、「今ここ」に深く没入する感覚が得られます。段ボールや水彩絵具という素材を使って六本木駅の出入口を再現する**ズガ・コーサクとクリ・エイト**は、恒久的な保存を前提としない制作プロセスによって、消えゆく時間の本質を表現します。**ガーダー・アイダ・アイナーソン**は、クローズド・キャプション(会話や効果音などの音声情報を文字で表示する字幕の一種)を絵画として描くことで音声を静止させ、感情やイメージを画面に凝縮します。特定の場所に集う人々の声や環境音を用いた**細井美裕**のサウンド・インスタレーションでは、日常に潜む多様な時間の流れを浮かび上がらせます。**和田礼治郎**のブランデーを用いた立体作品では、「永遠と刹那」「無限と有限」といった時間概念を探求しています。**荒木悠**は、鑑賞者の知覚を減速させる映像作品によって、言語、音、記憶について思考する時間を生み出します。時間とは均一ではなく、多様に感じられるものだということを示します。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234(幡井)、080-2573-6816(上田) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

ともにある時間

歴史的な時間がいかに現在において持続するか、また、相互理解が協働プロセスをとおしていかに生まれるかを示す作品を紹介します。日本軍がジャワ侵攻で使用した戦闘機「隼」を、その後インドネシア軍が独立戦争で再利用したという事実に着想を得て、隼をインドネシアの風職人の手で蘇らせる**北澤潤**のプロジェクトは、両国をつなぐ戦争の痕跡を、そこに関わる人々の記憶や手仕事を通してダイナミックに描き出します。**宮田明日鹿**は、多様な人々が編み物や刺繍を実践しながら人生経験、記憶、技能を共有するコミュニティを形成し、「アクティブ・アーカイブ」として機能させています。また、**アメフラシ**は、^{わらじ}草鞋や^{ほうき}箒づくりなどの、地域の歴史や文化を保存し、新たな意味を付与する取り組みを、時間をかけて行っています。**ひがれお**は、主に女性によって生産された土産物である琉球人形を通して、沖縄の複雑な歴史や文化がどのように受け継がれてきたかを省察します。**Multiple Spirits**は、ZINEの出版などを通して、フェミニズムの視点から歴史の新たな解釈を促します。**金仁淑**の実践は、特定のコミュニティとの長期的な関係構築を重視し、異文化を真に理解するためには継続的な関与が欠かせないことを明らかにしています。



北澤 潤
《フラジャイル・ギフト：隼の風》
2024年
竹、藤、印刷された布、紐
210 × 3,870 × 1,090 cm
展示風景：ARTJOG 2024、ジョグジャ国立美術館（インドネシア、ジョグジャカルタ）
撮影：Aditya Putra Nurfaizi

生命のリズム

ここでは、世界のあらゆる存在が独自の生命のリズムを刻むことで「時間」が流れていることを表現した作品を紹介しています。これらの作品は、時間が複数のリズムで現在を形作ること、そして、人間の時間的経験の不可逆性を提示します。マレーシアのムアールと日本の広島県尾道市を10年以上行き来している**シュシ・スライマン**は、尾道の廃屋の屋根瓦を用いたインスタレーションを制作し、瓦を媒介として、尾道の過去と現在、かつての居住者と作家自身を結びます。**キャリー・ヤマオカ**の写真作品は、刑務所や拘留施設の所在地をアルファベット順に並べ、強制移住と監禁の景観を地図化します。**マヤ・ワタナベ**は、融解する永久凍土に現れたマンモスの死骸を映像作品で映し出し、人類史を超える時間的スケールの存在を暗示しています。**木原 共**は、AIを用いた人生のシミュレーションを通じて、人生の選択の不可逆性を示しています。



シュシ・スライマン
展示風景：「ニューランドスカップ シュシ・スライマン展」尾道市立美術館（広島）2023年
撮影：高橋健治

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、上田、伊原

Tel: 070-4303-7234（幡井）、080-2573-6816（上田） E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

?! 展覧会関連プログラム

■キュレーターによるギャラリートーク

本展を担当したキュレーターが、展示室内でツアー形式のトークを行います。

第1回 ※日本語のみ

出演：徳山拓一（森美術館シニア・キュレーター）

日時：2025年12月12日（金）19:00～20:00

定員：30名

料金：無料（ただし、当日有効の森美術館の展覧会チケットが必要です）

お申し込み：不要（先着順で受付します）

集合場所：18:30～展覧会会場入口

第2回 ※英語のみ

出演：矢作 学（森美術館アソシエイト・キュレーター）

日時：2026年1月9日（金）19:00～20:00

定員：30名

料金：無料（ただし、当日有効の森美術館の展覧会チケットが必要です）

お申し込み：不要（先着順で受付します）

集合場所：18:30～展覧会会場入口

*このほかにも、出展アーティストによるワークショップやトークプログラム、アクセスプログラム、スクールプログラムなど、さまざまな企画を予定しています。

プログラムの詳細やお申し込みなどの最新情報は、森美術館ウェブサイトにてご確認ください。www.mori.art.museum

プログラムに関するお問い合わせ：森美術館 ラーニング担当

E-mail: mam-learning@mori.co.jp

関連情報

■展覧会カタログ

参加作家21組の作品図版、解説をはじめ、レオナルド・バルトロメウス（山口情報芸術センター [YCAM] キュレーター）、キム・ヘジュ（シンガポール美術館シニア・キュレーター）、徳山拓一（森美術館シニア・キュレーター）、矢作学（森美術館アソシエイト・キュレーター）それぞれによるエッセイや、キュレーター全員による共同執筆エッセイを掲載。

サイズ：A4変型判（28.2×21cm） ページ数：200ページ（予定） 言語：日英バイリンガル 価格：未定

発売日：2026年1月中旬（予定）

編著：森美術館 発行：torch press

販売場所：森美術館 ショップ 53（六本木ヒルズ森タワー53階）、森美術館 ショップ（六本木ヒルズウェストウオーク3階）、森美術館オンラインショップ

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、上田、伊原

Tel: 070-4303-7234（幡井）、080-2573-6816（上田） E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

■ AI音声ガイド

本展では、AIを搭載した次世代の美術館体験プラットフォーム「ARTLAS」の音声ガイドを試験的に導入します。ARTLASのAIガイドは、ユーザーの興味や言語（日本語、英語、中国語を含む、20以上の言語に対応）や会場滞在時間に合わせて、パーソナライズされたツアーを提供し、一人ひとりに適した作品解説とルート案内を実現します。

料金：無料

企画・制作：ARTLAS

監修：森美術館

ARTLASについて

ARTLASは、訪問者がアートと文化を体験する方法を再構築する、次世代のAIガイドプラットフォームです。世界の主要な美術館や文化施設と共同で開発され、既存の解説資料を、各訪問者の好奇心、年齢、言語、背景、知識レベルに合わせて変化するダイナミックで対話的な体験へと変えます。新しいコンテンツを生成するのではなく、ARTLASは施設から提供されたテキストを言い換え、パーソナライズすることで、美術館の本物の声とキュレーションの意図を保持します。多言語対応として設計されており、多様なグローバルオーディエンスに対するアクセシビリティとインクルーシブネスを保証します。その使命は、美術館の学術的な誠実さを守りながら、アートと文化をすべての人にとってより身近で、魅力的なものにすることです。詳細は <https://www.artlas.art/> をご覧ください。（英語のみ）

■ Anthropic社とのパートナーシップ

森美術館はこの度、Anthropic 社との長期的なパートナーシップを締結しました。

「六本木クロッシング2025展」において、森美術館は同社より展覧会協賛とともに、A.A.Murakami《水中の月》や木原共《あなたをプレイするのはなに？ — ありうる人生たちのゲーム》の作品制作における技術協力を受けています。

今後も森美術館出展作品における技術的なサポートを得るとともに、ラーニング・プログラムやイベントなどで、コラボレーションを継続的に実施する予定です。なお、Anthropic 社は、森美術館で提供する「ARTLAS」に対し、Claude を基盤とした技術支援を行っています。

Anthropic(アンソロピック)について

アンソロピックは、信頼性、解釈可能性、制御性に優れた AI システムを開発する AI 企業です。主要製品である大規模言語モデルの「Claude(クロード)」は、世界中で数百万人に利用されています。

アンソロピックおよび Claude の詳細は anthropic.com をご覧ください。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、上田、伊原

Tel: 070-4303-7234(幡井)、080-2573-6816(上田) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

■ コラボレーションディナー by 桑田卓郎

六本木ヒルズ森タワー52階のレストランTHE SUN & THE MOONでは、アーティスト桑田卓郎の器に厳選した食材を盛りつけたコラボレーションメニュー「DINNER by KUWATA TAKURO」を展開致します。「六本木クロッシング2025展」だけの五感で味わう特別なコースです。様々な器の色彩、質感、形状が料理と響き合い、視覚と味覚が交差する体験を、展覧会の鑑賞と合わせて、ぜひお楽しみください。

提供期間：2025年12月3日(水)～2026年3月29日(日)

※12月21日～25日のクリスマス特別営業期間は除く

提供時間 | 価格：18:00～22:00(L.O. 20:00, drink 21:00) | 15,000円(税込)

※金曜日、土曜日は23:00まで(L.O. 21:00, drink 22:00)

*ディナーのみのご提供となります。

*提供メニューは1日限定10食となっております。品切れの際は何卒ご容赦ください。

*価格には10%のサービス料を加算させていただきます。

*森美術館・展望台・森アートセンターギャラリーの入館券をお持ちのお客様は、ビューチャージ(1人様/500円)は不要です。



ご予約・お問い合わせ：THE SUN & THE MOON

Tel: 03-3470-0052 ウェブサイト <https://thesun-themoon.com/moon/>

■ 展覧会グッズ

北澤 潤「After Projects」

北澤潤が手がけるブランド「After Projects」より日本初登場。Tシャツ、トートバッグ、風呂敷などのアイテムを販売します。「After Projects」は、アートプロジェクトによって残された材料、記憶、アイデアを素材に、日用品を生み出していくもの。アートの物語性を日常生活へと接続する、ユニークなアイテムを提案します。代表的なアイテムには、インドネシアの博物館にある戦闘機「隼」を実寸大の風に変え、空へ飛ばす「フラジャイル・ギフト・プロジェクト」で使用した布を用いたアパレルなどがあります。また、作家が描いたドローイングを元に、インドネシアの伝統技法「バティック(ろうけつ染め)」で制作した手拭いや風呂敷も展開します。

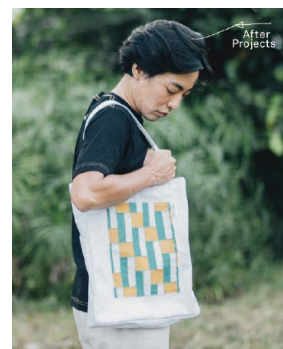
フラジャイル・ギフト パッチTシャツ

価格：各7,480円(税込)

サイズ：M、L、XL、XXL ※ユニセックス

フラジャイル・ギフト パッチキャンバスバッグ

価格：8,580円(税込)



プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 幡井、上田、伊原

Tel: 070-4303-7234(幡井)、080-2573-6816(上田) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

シュシ・スライマン「k for kawara」Tシャツ

作家のドローイングをデザインしたオリジナルTシャツ。このドローイングは本展で展示されるインスタレーション作品《瓦ランドスカップ》と対をなす作品として生み出されました。

作家コメント：

「Tシャツのドローイングは、自発的かつ無計画に『瓦』を思うままに描きました。非常に緻密につくられた本展でのインスタレーション《瓦・ランドスカップ》と、このドローイングは理想的に対をなしてくれています。」

価格：未定

発売日：2026年1月(予定)

サイズ：S、M、L ※ユニセックス



展覧会オリジナル クラフトビール

山形県長井市を拠点に活動する「アメフラシ」のメンバーの一人、村上滋郎が醸造した4種のビール。アメフラシをふくむ本展参加作家の作品画像を用いたラベルは、「六本木クロッシング2025展」限定です。

生産者：長井ブルワリークラフトマン

ひょう(ペールエール)

ラベル(4種)：A.A.Murakami、荒木 悠、ガーダー・アイダ・アイナーソン、キャリー・ヤマオカ

くきたち(IPA)

ラベル(4種)：A.A.Murakami、ひがれお、庄司朝美、Multiple Spirits

わらじ(Session Saison)

ラベル：アメフラシ

ほうき(XPA)

ラベル：アメフラシ

価格：各1,100円(税込) 330ml



展覧会オリジナル トートバッグ(4色)

展覧会のロゴと全出展作家の名前をあしらったトートバッグ。白・スカイブルー・ピュアグレー・黒の全4色。展覧会のお土産にお好きな色をお選びください。

価格：各1,980円(税込)



その他、ステーションナリーやポストカードなどが登場します。

お問い合わせ：森美術館 ショップ 53

Tel：03-6406-6118 営業時間：10:00-22:00(祝日を除く火曜日は17:00まで) *美術館の開館時間に準ずる

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内)：幡井、上田、伊原

Tel: 070-4303-7234(幡井)、080-2573-6816(上田) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

■ 割引情報

4人以上がお得！平日学生グループ割

日本のアートを多角的に見つめ直す本展では、学生の皆さんを応援する平日限定の「グループ割」を実施。森美術館オンラインチケットサイトでご購入の場合、4枚から6枚までの学生チケットが4,000円になります。放課後に、冬休みや春休みのお出かけに、ぜひ誘い合わせのうえでご来館ください。



料金：オンラインチケット4枚～6枚で4,000円

※学生料金限定

※合計金額から、4枚1,200円、5枚2,500円、6枚3,800円の割引

期間：2025年12月3日(水)～2026年3月29日(日)「六本木クロッシング2025展」会期中

※月のはじめに翌月末まで有効のクーポンが発行されます。翌月末以降にグループ割をご利用希望の場合は、クーポンの発行をお待ちください。

対象：森美術館オンラインチケットサイトで、学生の平日日時指定券を4枚以上ご購入の方

※学生は高校、大学、大学院、短大、専門学校に通学する方

※来館時に身分証等をご提示ください

30周年記念展「ALL OF EVANGELION」・東京シティビュー(展望台)× 「六本木クロッシング2025展」(森美術館)相互割引

森美術館「六本木クロッシング2025展」と、30周年記念展「ALL OF EVANGELION」、東京シティビュー(展望台)は相互割引を実施します。六本木ヒルズで二つの展覧会と展望台をお得にお楽しみください。

期間：2025年12月3日(水)～2026年1月12日(月・祝)

内容：一般チケット500円引き

- ・「六本木クロッシング2025展」の一般チケットをご購入の方に、30周年記念展「ALL OF EVANGELION」と東京シティビュー(展望台)の一般チケット500円引きクーポンをそれぞれ発行いたします。
- ・30周年記念展「ALL OF EVANGELION」の一般チケットをご購入の方に、「六本木クロッシング2025展」一般チケット500円引きクーポンを発行します。
- ・東京シティビュー(展望台)の一般チケットをご購入の方に、「六本木クロッシング2025展」一般チケット500円引きクーポンを発行します。

「リピーター割」で2回目半額！

本展をじっくりと鑑賞していただけるよう、「リピーター割」を実施します。森美術館オンラインチケットサイトでチケットを購入後、ご来場いただいた方に、2回目の鑑賞料金が半額となる割引クーポンを発行します。ぜひご利用ください。

期間：2025年12月3日(水)～2026年3月29日(日)「六本木クロッシング2025展」会期中

対象：森美術館オンラインチケットサイトで「六本木クロッシング2025展」のチケットを購入し、使用した方

* 割引情報の詳細や利用方法・注意事項は、森美術館ウェブサイトにてご確認ください。 www.mori.art.museum

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 幡井、上田、伊原

Tel: 070-4303-7234(幡井)、080-2573-6816(上田) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

「六本木クロッシング2025展」 同時開催小プログラムのご案内

会期：2025年12月3日(水)～2026年3月29日(日) 会場：森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

※「六本木クロッシング2025展」チケットでいずれのプログラムも鑑賞可



MAMコレクションは、森美術館の収蔵品を、
多様なテーマに沿って順次紹介する展覧会シリーズです。

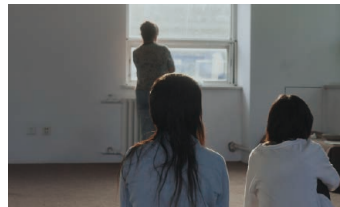
MAMコレクション021：ハオ・ジンバン(郝敬班)

主催：森美術館

企画：趙 純恵(森美術館アソシエイト・キュレーター)

ハオ・ジンバン(郝敬班、1985年中国山西省生まれ、雲南省在住)は、歴史の researched に基づく映像作品を通して現在と過去の変化や距離を探究するアーティストです。本展では、愛する人を失った人々の「喪の感情」をパフォーマンスを通じて再現し、象徴的な哀悼の表現を身体で探究する、3チャンネル・ビデオ・インスタレーションの最新作《見届けるものとして》をご紹介します。

※《見届けるものとして》はハン・ネフケンス財団、森美術館、M+、シンガポール美術館による共同コミッション作品です。



ハオ・ジンバン(郝敬班)
《見届けるものとして》
2025年
3チャンネル・ビデオ・インスタレーション
54分41秒
Courtesy: Blindspot Gallery

?! ハオ・ジンバン(郝敬班) アーティストトーク

※日英同時通訳、手話同時通訳付

本アーティストトークでは、本展展作である《見届ける者として》を中心にこれまでの作品についてアーティストが語ります。

出演：ハオ・ジンバン(郝敬班)(アーティスト)

ハン・ネフケンス(ハン・ネフケンス財団 創設者・代表)

趙 純恵(森美術館アソシエイト・キュレーター)

日時：2025年12月3日(水)19:00-20:30(開場：18:45)

会場：森美術館オーデトリウム

定員：70名(要予約、先着順)

料金：無料(ただし、当日有効の森美術館の展覧会チケットが必要です)

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum



MAMスクリーンは、世界の多様な映像作品のなかから
選りすぐりのシングル・チャンネル作品を上映するプログラムです。

MAMスクリーン022：イキバウィクルル

主催：森美術館

企画：趙 純恵(森美術館アソシエイト・キュレーター)

イキバウィクルルは、アーティストのチョ・ジウン、コ・ギョルによる「ビジュアル・リサーチ・バンド」です(2021年にソウルで結成)。人間中心主義的な価値観に対し、植物の在りようを学びながら作る軽快な作品によって、世界の複雑さや多様さ、豊かさを私たちに認識させてくれます。本展では、韓国・済州島の海女合唱団とコラボレーションした代表作《海草の物語》(2022年)を中心に、最新作を含む作品を紹介することで、イキバウィクルルの活動の軌跡に迫ります。

※上映時間は18:00～22:00です。



イキバウィクルル
《海草の物語》
2022年
5分22秒

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内)：幡井、上田、伊原

Tel: 070-4303-7234(幡井)、080-2573-6816(上田) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp



MAMプロジェクトは森美術館が世界各地のアーティストと実験的なプロジェクトを行うシリーズです。

MAMプロジェクト034：ソニア・ボイス

主催：森美術館

企画：ヴィクター・ワン（森美術館アジャнкт・キュレーター）

英国のアーティスト、ソニア・ボイスは、1980年代初頭に英国のブラック・アーツ・ムーブメントの中心的存在として頭角を現しました。その実践は、映像、写真、ドローイング、サウンド、インスタレーションなど多岐にわたり、ディアスポラ（離散移民）の経験を作品で表現し、他者との協働による制作の可能性を探っています。日本初個展となる本展では、ボイスの代表作「ディポーショナル」シリーズより、最も大規模なインスタレーション作品《ディポーショナル・ウォールペーパー・アンド・プラカード》（2008-2020年）を初公開します。



ソニア・ボイス
《ディポーショナル・ウォールペーパー・アンド・プラカード》
2008-2022年
プラカード100本、壁紙
サイズ可変
Courtesy: Manchester Art Gallery
展示風景：「ソニア・ボイス」展、マンチェスター・アート・ギャラリー（英国、マンチェスター）、2018年
撮影：Mike Pollard
© Sonia Boyce. All rights reserved, DACS & JASPAR 2025 G4025



ソニア・ボイス アーティストトーク「アート、自由、そして協働」

※日英同時通訳、手話同時通訳付

日本で初開催となる本トークセッションでは、作家が協働的かつ即興的な創作や、著作権、自由、文化的アイデンティティといった概念に常に問いを投げかけ、拡張してきた活動について語ります。

出演：ソニア・ボイス（アーティスト）、ヴィクター・ワン（森美術館アジャнкт・キュレーター）

日時：2025年12月4日（木）19:00～20:30（開場：18:45）

会場：森美術館オーデトリウム

定員：70名（要予約、先着順）

料金：無料（ただし、当日有効の森美術館の展覧会チケットが必要です）

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、上田、伊原

Tel: 070-4303-7234（幡井）、080-2573-6816（上田） E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp